

2022 年度 小委員会活動成果報告

(2023 年 2 月 15 日作成)

小委員会名	光と色の情報普及小委員会	主 査 名：望月 悦子 就任年月：2021 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (光環境運営委員会)	委員長名：秋元 孝之 主 査 名：原 直也
設 置 期 間	2021 年 4 月 ～ 2025 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>建築環境工学の中で光・色に関する内容の枠組み・構成は、ほぼ定形化している向きがあるが、近年の照明技術等の発達に伴い、従来の定形化された枠組み・構成では、今後、対応しきれなくなる可能性もある。</p> <p>次世代の光・照明環境に対応していくために、建築に携わる全ての人が共有していくべき光・色に関する情報ならびにその共有方法について検討する。</p> <p>初年度：建築環境工学以外の分野で光環境を扱っている分野、関連する活動領域にどのような分野があるのか調査する。</p> <p>2 年度：建築環境工学以外の分野で光・色がどのように扱われているか調査し、光・色に関する情報の発信方法、共有方法における課題を抽出する。</p> <p>3～4 年度に設置する新たなWGで取り組むべき内容、活動方針を検討する。</p> <p>3 年度：2 年度に引き続き、光・色に関する情報の発信方法、共有方法における課題を抽出する。</p> <p>4 年度：4 年間の活動成果についてシンポジウム等で公表する。</p>	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：有	
	主査：望月 悦子 (千葉工業大学) 幹事：加藤 未佳 (日本大学) 委員：秋月 有紀 (富山大学)、大井 尚行 (九州大学)、岡本 洋輔 (大同大学)、奥田 紫乃 (同志社女子大学)、神農 悠聖 (大手前大学)、原 直也 (関西大学)、山本 早里 (筑波大学)	
設置 WG (WG 名：目的)	<p>① 光と色の教育シンポジウムWG</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 初学者に対し、建築の光環境・色の分野において教育すべき内容を検討する。 ・ 現地開催のシンポジウムを企画・開催する ・ オンデマンド教材の開発、定期的な配信 (アーカイブ化) について検討する。 <p>② 光と色の教育デザインWG</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各大学で光・色に関してどのような教育が行われているのか調査する。 ・ 設計事務所、ゼネコンなどを対象に、建築光環境に関して持ち合わせておいて欲しい知識・内容はどのようなものか調査する。 ・ 建築に携わる各専門分野の人達に向けて、今後教授すべき建築光環境の内容について整理する。 	
2022 年度予算	80,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：

項 目	自己評価
委員会開催数	2 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) * 能力開発支援事業委員会承認企画	1. シンポジウム「空間を魅せる光と色 2022」 参加者数 63 名 2. 光環境シンポジウム「先輩研究者・技術者に聞く光環境研究の秘話 第 2 回：海宝幸一氏」 参加者数 41 名
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	

<p>目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2008年より継続して実施している若手のための教育シンポジウム『空間を魅せる光と色』を、コロナ感染対策を講じた上で開催した。 2. 新しいシンポジウムシリーズとして『先輩研究者に聞く光環境研究の秘話』の第2回目を企画、開催した。 3. 大学における光環境に関する教育の実態と課題について調査した。
<p>委員会活動の問題点・課題</p>	<p>特になし</p>

- * 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。
- * 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学委員会用 自己評価欄

2022 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価・最終年度評価)

総合評価 (4段階評価)	A	B	C	D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>2008年より、隔年で継続的に開催しているシンポジウム『空間を魅せる光と色』は、2020年はコロナ禍の影響で完全オンライン開催としたが、2022年度は、実体験を重視するシンポジウムの特性を鑑みて、少人数のグループ単位で光・色に関する実演・解説を学習する形式とした。また、オンデマンドによる動画コンテンツを事前・事後学習用に提供し、実演に入る前段階の基礎的事項については事前学習を行ってもらうことで、シンポジウム当日は、実演・体感を中心とした内容で構成した。少人数単位で実演・解説を受講するようにしたことから、参加者は従前のホールで行う形式よりも、近くで実演を見ることができ、現地開催することの意義、メリットを確認できた催しとなった。</p> <p>本小委員会発足とともに立ち上げた新たなシンポジウムシリーズ『先輩研究者に聞く光環境研究の秘話』の第二回目を開催した。研究者だけでなく、技術者にも対象範囲を広げ、今後、シリーズの充実を図っていく。</p>			

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価 (シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など) に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。